

人と人とのコミュニケーション大切に

令和五年元旦

理事長 北島憲高



新年あけましておめでとうございます。

の流れで廃止とされてしまったものも少なくないです。形は変われど儀礼は忘れたくないですね。年に一度しかないご挨拶の方へも今どう過ごされているのかと思いを馳せるのも、大切なひと手間なのかと思いま

組合員や協賛会の声を聴きながら、時代に合った開催について検討していこうと思っています。常に組合員・会友のニーズがどこにあるのか、これまでのような組合運営では組合員離れに歯止めをかけることは出来ません。

昨年一年間はウイズコロナの考え方がだいぶ浸透して、仕事ではもちろん組合活動も徐々に通常運営に戻りつつありました。

お会いする方もいらして、直接お会いしてのコミュニケーションの大切さもひしひしと感じました。

ただ所謂コンベンショナル機とデジタルを合わせた機械や検品機などが多く出されていたことを見ると、如何に無駄を少なくするか・効率を良くするかといったところがSDGsとの親和性もあってトレンドなのかと感じました。今後恒例のミニ機材展の開催についてはこれまで

これを書いている年末の時点では第八波が到来という状況ではありましたが、忘年会も多く行われ、感染に気を付けながら活動するという事が普通になってきました。コロナ禍前のことを思い返すとこれが普通なのだと改めて感じます。

七月には「インボイス講習会」を東京都中小企業団体中央会の助成事業としてリアルで開催し、また九月には業界では初の「シール印刷の工賃について」のセミナーも開催し、オンライン参加も含めて百名を超す参加者があり、改めて関心の高さをうかがい知ることができました。

「相互扶助」一社ではできないことを数の力で「をいま一度思い起こし、時代に即した組合活動を今後とも心掛けてまいりますので、今年もよろしくお願いいたします。

近年、年賀状やお歳暮の中止など効率化や予算削減

また二〇二二年は四年ぶ

の



新年明けましておめでとうございます。

新型コロナウイルスはついに三年越しとなり、日本経済のみならず、世界経済に大きな影響を与えています。さらに昨年二月にはロシアによるウクライナへの軍事侵攻が始まり、すでに一年になるうとしており、さらに世界経済に大きな打撃を与えています。

タック紙の二度にわたる値上げがシール業者にも追い打ちをかけ、インキや関連資材の値上げが続き、値上げの転嫁も厳しい中根苦戦を強いられています。こんな中に会っても組合では七月に「インボイス講習会」と、九月には「見積もりの勉強会」をリアル

で開催し、多くの参加者を集め「やはりオンラインではなくリアル開催じゃない」という声をたくさんいただきました。これからは「ウイズコロナ」アフター「コロナ」の考え方の下に組合事業を進めていきたいと思っています。

組合の若返りの成果は残念ながらまだ出ていないと言えませんが、年次大会を見てもわかる通り、若い力が徐々に随所に感じられるようになってきたことは大きな成果ではないでしょうか。若い力と経験と知識豊富なベテランの力を融合して、組合活動を活性化していきます。

東京都中小企業団体中央会会長 會津 健



明けましておめでとうございます。

昨年5月に会長に就任

しました。令和5年の新春を迎えるにあたり、皆様にご挨拶を申し上げます。昨年のが国経済は、長期化するコロナ禍やロシアのウクライナ侵攻、世界的なインフレなど、大きな環境変化が次々と押し寄せ、予測困難な状況が続きました。足元では、複合的な要因による原油・原材料価格の高騰、円安の急伸が国民生活や企業経営に大きな影響を及ぼし、中小企業・小規模事業者は、極めて厳しい状況のまま新年を迎えました。

このような状況の下で本会は、原油・原材料・物価の高騰や急速な円安の進行対策として、経営課題の解決のための専門家派遣事業や組合等が行う業界の活性化に向けた新たな市場開拓や生産性向上などの取り組みに対する支援のほか、ウイズコロナを見据えて、デジタル技術等を活用した先進的な事業の実施を支援する「中小企業新戦略支援事業（団体向け）」、技術・サービスの高度化・高付加価値化に取り組む中小企業・小規模事業者を支援する「明日にチャレンジ中小企業基盤強化事業」などを実施しました。

さらに、本年十月に導入

「組合まつり in TOKYO」を東京国際フォーラムにて一月十八日、十九日の二日間、オンライン展示会を一月十一日から二月三日までの約一カ月間開催いたします。組合産品の展示・販売・実演等、組合や業界の知名度向上の場として全国一体となる「組合まつり」に是非ともご来場いただくとともに、オンライン展示会もご覧いただきたく存じます。

さて、岸田内閣は、「新しい資本主義」を主要政策

の一つとしており、その中で『人への投資』の抜本強化」を掲げています。デジタルトランスフォーメーション（DX）やグリーントランスフォーメーション（GX）など、技術は時代により変遷しますが、常にそれらを生み出し、発展させていくのは「人」であり、中小企業・小規模事業者が競争力を強化していくためには、その担い手である「人」の育成が重要となります。

本会としても組合役職員の資質向上など、引き続き「人」の育成に注力するとともに、組合組織の活性化、中小企業・小規模事業者の発展のための効果的な支援の実施に努め、併せて、国や東京都に対して中小企業施策の充実のための要望を行うなど、皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいります。

結びに、本年が皆様にとりまして、明るい希望に満ちた年となることを心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。

協賛会長 服部 真

環境ニーズやリスクに対して、今こそ業界全体が総力を結集する時



明けましておめでとう

ございます。旧年中は協賛会各社に対し格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。本年も引き続きお引き立てのほど、よろしくお願

いいたします。さて、昨年は原燃料価格や物流費の高騰などによってラベル業界を取り巻く事業環境は厳しいものとなりました。インフレやそれに伴う消費者の購買行動の変化なども受けて今、業界全体として先行きが非常に不

透明な状況にあるといえるのではないのでしょうか。

また周知のとおり、近年の地球温暖化や環境汚染の深刻化といったさまざまな

環境問題に対し、ラベル業界も大きな変革の時期を迎えています。社会の環境ニーズが急速に高まりつつある中、温室効果ガスの排出量削減や循環型社会の実現に寄与するべく、特にフィルムベースのラベル素材を中心とした製品設計の見直しなどを一段と加速させていかなければなりません。

脱プラスチック・減プラスチック化はもとより、再生プラスチック素材やリサイクル可能なモノマテリアル素材、あるいは被着体のリサイクル・リユースに寄与する再剥離タイプのラベル素材など、さまざまな視点からブランドオーナー各社様に対して積極的に提案していく必要があると考えています。また、剥離紙についてもリサイクル可能な素材の開発・提案や回収システムの構築などが今後は求められてきます。

一方、気候変動に伴う企業のリスクもますます高まってきました。洪水や土砂崩れなどを伴う豪雨、台風といった昨今の異常気象はサプライチェーンの寸断

をもたらし、原材料の調達にも支障をきたすことになりそうです。常日頃からそうしたリスクを事前に想定した対策が今後はさらに重要になってきます。

このような状況を受け、私たち協賛会各社を含めてラベル関連業界として長期的視点から今、何をしていかなければならないか。業界全体が協力し合い、引き続き総力を結集してイノベーションを推進しながら、さまざまな課題に立ち向かっていこうではありませんか。2023年は兎年で「飛躍」や「向上」の年と言われています。これまで積み重ねてきたことをいち早く実りにつなげるべく、共に邁進していきましよう。

最後に各社様の今後のご発展と皆様のご健勝を祈念いたしましたして、新年のご挨拶とさせていただきます。



第64回年次大会 3年ぶりに IGAS2022 と同時開催 全国から270名を超える参加者が ラベルコンテストの表彰式も



第六十四回年次大会 I G A S 大会は、十一月二十五日(金)に東京ビッグサイトに於いて全国から二七〇名が参加して三年ぶりに開催されました。



「協創」を大会スローガンに、「IGAS2022」の期間中の開催となり、新型コロナウイルスで二回も延期となり、久しぶりの開催となった当日は多くの来場者で賑わいました。



午後一時半より式典が開始され、主催者を代表して挨拶に立った田中祐会長は「連合会の若きリーダー達や経験と実績を兼ね備えたいリーダー達によるそれぞれの活動が融合を果たせば、シール・ラベル業界の連合会の協創となる活動ができる」と確信している」と語りました。

この後大会宣言と次期開催地金沢の東海北陸シリリング印刷協同組合理事長の大河内康史氏が閉会の辞を述べ式典は無事終了いたしました。

佳奈子氏、日本印刷産業連合会専務理事の小澤典由氏、全日本シール印刷協賛会会長の服部真氏の三名が祝辞を述べました。

連合会報告、祝電の披露に続き、組合功労者や優良従業員の表彰が行われ、当組合からは光英堂シール印刷の本橋久喜氏と、サン技研の田中永一氏が優良従業員として表彰されました。

また、第三十二回シールラベルコンテストの表彰式も併せて行われ、経済産業大臣賞を初め入賞作品に対して賞状が贈られました。

世界四大印刷展の一つである I G A S 2 0 2 2 は、前日の二十四日に開幕し、二一八社、一八七五小間の規模で開催され、初日は開会式が行われ、テープカットで五日間の幕が切れて落とされ、会期中三万三千人(海外来場者三千人)が訪れ、内外の最新鋭機材が一堂に展示されました。

式典終了後、午後五時半より懇親会が開かれ、正札シール組合副理事長の小林淳史氏が開会の挨拶を行い、当組合理事長の北島憲高氏の音頭で出席者全員で乾杯し、三年ぶりの再会に歓談の輪が広がり、最後に神奈川県シール印刷協同組合理事長の堀木淳一氏が中締めを行い閉会しました。

年次大会に先立って午前十一時半より港区台場の「グランドニッコー東京台場」に於いて恒例の O B 会場が開催され、北海道や大阪から O B 十名が参加し、当組合からは顧問の渡邊正一氏が出席しました。

「抗菌剤への過剰な信頼はマイナスに」

(有)TOOV 篠田 ちる

ら次へとやってくる。

抗菌剤入り製品への懸念

私たちの社会は衛生を重視するあまり、有益な共生微生物を犠牲にしている面がある。先進国に暮らす人の大半は一日一回石鹸と温水で全身を洗い流している。皮膚は病原体への最初の防衛線だ。正確に言うと皮膚の上にもう一枚保護層がある。その保護層を形成しているのは花の中にいるプロピオニバクテリア属の細菌や、わきの下にいるコリネバクテリア属の細菌などを中心とした皮膚のマイクロバイオータだ。

あえて言わない、普通の石鹸を使っても同じ効果を期待されるうえ、あなたにも環境にも害を与えずに済むという事実を。石鹸と温水は微生物が付着している物を洗い流すだけである。スプレー洗浄剤も同じに調理台を拭くのは有害な微生物の餌となる食べ物の屑を取り除くためであり、微生物そのものを殺すためではない。殺す必要もない。

が科学に勝った成功例である。何千という商品に使われているから安全なはずだと勝手に思い込んではいけないのだ。トリクロサン、アメリカのミネソタ州の知事は二〇一七年以降この物質を生活用品に使うことを禁じる法案に署名している。トリクロサンの濃度とアレルギーの重症度に明白に相関関係がある。体内に多くあるほど花粉症、その他アレルギーを発症しやすい。ペビー用のお盆を抗菌クリーナードで拭きましょうというコマーシャルは衛生上のメリットよりデメリットを拡散している。

という。また塩素消毒した水道水と結合すると発がん性物質クロロホルムになる。細菌を殺すために化学物質を使うというのなら、アルコールを手すりすりこむのが最善の方法だ。皮膚はシャワージェルやモイスチャードを使わなくても大丈夫なようにできています。一日一回体を洗っても制汗剤を付けている人ほど悪臭がする。ほとんど体を洗わない未開地に住む人は体臭に悩むことはしない。どんな匂いになるかは個人が棲まわしている微生物の組成比しだ。皮肉なこと匂いを抑えるためにと脱臭スプレーを使うことにより悪循環を引き起こす。

石鹸と脱臭剤はアンモニア酸化細菌を殺す。アンモニア酸化細菌がいなくなると皮膚のマイクロバイオータが乱れる。マイクロバイオータの組成比がかわると汗が嫌な匂いを発するようになる。自然のまま自分の匂いが自分にとっても他人にとっても心地よいことに気づくだろう。

腸内と同じく病原体を締め出し、侵入を図る微生物への免疫反応を調整する働きをしている。家の中にはバイ菌だらけという広告の一斉攻撃、家族の安全を与えらるなら細菌とウイルス九・九％抗菌作用のある商品を使いましょうと脅迫するようなメッセージが次々

抗菌剤を足しても意味はないのだ。九九・九％の細菌を殺す宣伝は少量のサンプルで完全な不在は証明できない。証拠の不在は不在の証明にはならない。抗菌剤入りの石鹸が殺している細菌を明記している商品は九・九％取り除くことができるとい意味ではない。

抗菌製品は宣伝と仮説

更に甲状腺ホルモンの働きに干渉することがわかった。エストロゲンやテストステロンの働きを阻害する

第一一九回ラベル会・佐倉カントリー倶楽部
天野紀和氏(村田金箔)が二連覇達成!

第一一九回ラベル会は、十二月十三日(火)に「佐倉カントリー倶楽部」に於いて、十八ホール、ストロークプレイ、四組十三名で開催され、村田金箔の天野紀和氏が並みいる強豪を抑えて優勝し、前回の第一八回ラベル会に続いて二連覇を果たしました。二位には実力ナンバーワンのサンワコーケン高橋範幸氏、初優勝を狙った塚谷刃物製作所の荒健也氏は今回も三位に泣きました。

当日はスタートから本降りの雨模様で、合羽を着る人も多く、インからスタート、降りしきる雨の中、十五番ホールから雨が止み、午後後のスタートも曇り空で一同良かったと思つたものつかの間、六番ホール頃から再び雨に、十八ホールの半分は雨の中のプレーとなりました。

【天野紀和氏談】

当日は関東では水戸で初雪が観測され、千葉の佐倉

り、同伴者の皆様には感謝しかありません。これでも喜一憂せず、これからも楽しいゴルフを続けたいと思います。本当にありがとうございました。

■お知らせ

ラベル会も次回は一二〇回目を迎えますので、記念大会として企画していますので奮ってご参加下さい。

■優勝・天野紀和(51.47.98. HD22) ■二位・高橋範幸(43.41.84 HD6) ■三位・荒健也(53.43.96 HS18)



川越テックが

日本ウエスト関東に

川越テック株式会社(本社・埼玉県川越市、代表取締役・長田和志)は、昨年十月一日付けで、社名を「日本ウエスト関東株式会社」に変更しました。

社名変更の背景について
当社では、「創業以来、地域に根差した事業展開を進め、地域と共存していきたい」という想いから『川越』という商号を大切にしてきたものの、事業開始から十三年が経ち、世界のリサイクルの大きな流れの変化の中で、グループ各社との連携が一層重要となったこともありグループ各社と同じく『日本ウエスト』を商号に入れ第二創業期と捉え、新たにスタートする事になったもの」としている。

旭ネームプレート製作所
代表取締役が変更

東支部の旭ネームプレート製作所はこのほど役員変更を行い、代表取締役に保坂明彦氏が就任いたしました。